

雪遊びをしよう

子どもたちが雪に親しみをもつ一番の活動は、雪遊びです。早い年で12月の中旬くらいから雪が積もり始めます。雪解けは、遅い年だと4月中旬くらいまでとけ残っていることもあるので、かなり長い期間、雪と触れ合うことができます。

そのうち、学校で外遊びができる期間は、1月下旬から3月の初め頃までしかありません。また、外に出るには身支度も必要となります。手間がかかっても外遊びがしたい、雪で遊びたいと思うには、「雪って楽しい。」「雪って、よく見ると日によって違う。」という体験や気付きが必要です。

ここが
ポイント

遊びの中にも目的を！

「遊び」が学習になりますが、目的が無いと、好き勝手な活動になりがちです。子どもたちが自由に遊ぶだけではなく、今日はどういう目的で遊ぶのか、目的をはっきりさせましょう。例えば、尻滑りならば、「一番早く滑る方法を調べよう。」「あのラインを越えられるかな。」という目的を与えることで、子どもたちなりの工夫が生まれ、どんどん追究しようとする姿が見られるようになります。

あるある NG!

先生も楽しくなって、ついつい一緒に遊んでしまうのですが、心配なのが事故です。特に、子どもたちは滑り降りてくる友達を見ずに斜面を登ろうとしてしまいがちです。登る場所と滑り降りる場所の区別（通路の目印をつける）をすることはもちろん、複数の教師がいるならば安全確認をする役割をもって、子どもたちの安全を見守っていきましょう。

ここが
ポイント

米袋を活用しましょう

最近は、尻滑りの道具も購入できます。百円均一ショップでも、ヒップそりが手に入りますが、何度も滑っていると割れてしまうことがあります。丈夫さで考えると、以前から使われている米袋を使ったそりが一番です。以前は、新聞紙を入れて作りましたが、近年では厚めの座布団を入れて作る家庭もあり、お尻が痛くならないような工夫をしています。

ここが
ポイント

休み時間有効活用！

子どもたちは、事前の身支度から時間がかかります。休み時間の前後どちらかに学習を組むことで、たっぷり活動する時間をとることができます。

2時間目→中休み

身支度で学習時間は少し減りますが、子どもたちは休み時間を使って、たっぷり活動することができます。

中休み→3時間目

身支度が済んだ状態で3時間目の学習に取り組むことができます。

昼休み→5時間目

一番たっぷり時間を使えます。ランドセルの置き場所を考えます。そのまま下校することもできます。

あるある NG!

外での活動はとても楽しく、子どもたちは夢中になって活動に没頭します。しかし、忘れてはならないのはトイレに行くことです。夢中になるあまり、ぎりぎりになってしまう子もいます。外なのでトイレは遠く、玄関も施錠されていることが多いです。さらに、しっかり服を着込んでいますから、トイレまでの道のりは遠く、失敗してしまう子も時々見られます。

活動中には、教師から早め早めに声を掛けてあげましょう。

Active

雪遊びの中で、大きなウェイトを占める活動は、米袋を使った尻滑りの他に、雪像づくりがあります。

作ること自体がとても楽しいことですし、子どもたちも夢中になって活動することで達成感につながります。

さらにここで「遊びのお店をつくる」というコンセプトを取り入れると、自分たちの満足感だけでなく、友達を喜ばせようとか、楽しく遊んでもらえてよかったです、という新たな視点で次への意欲を喚起することができます。